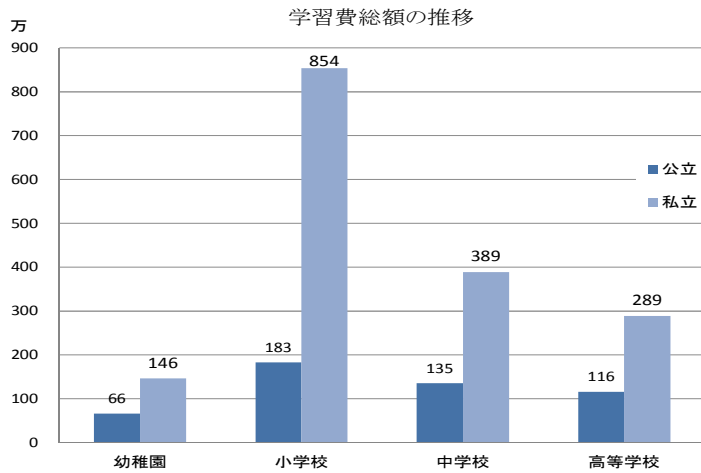




こどもの教育費 どれくらい？

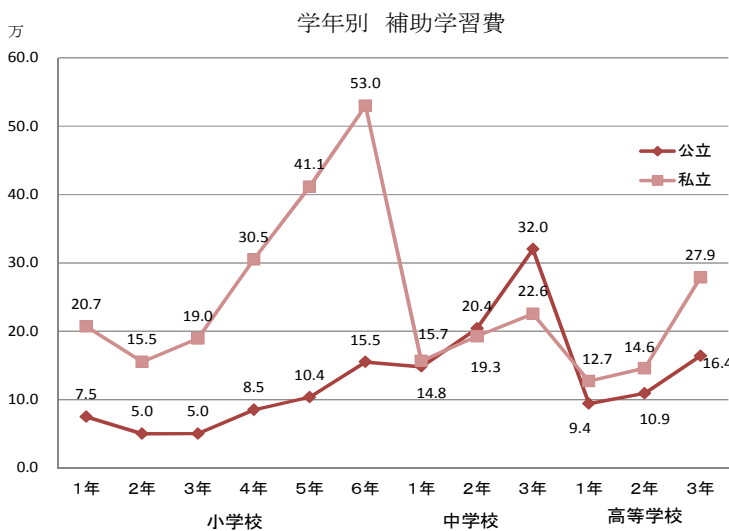


5月5日はこどもの日です。総務省統計局の推計人口によると、平成25年10月1日現在の15歳未満のこどもの数は沖縄県で24万9千人、人口に占める割合は17.6%で、全国1位だそうです。確かに街を歩いていてもこどもの数が多いという感じがします。でも、こどもを持つ家庭では教育費も気になるところではないでしょうか。そこで今回は文部科学省の「平成24年度 こどもの学習費調査」からこどもの教育費について調べてみました。



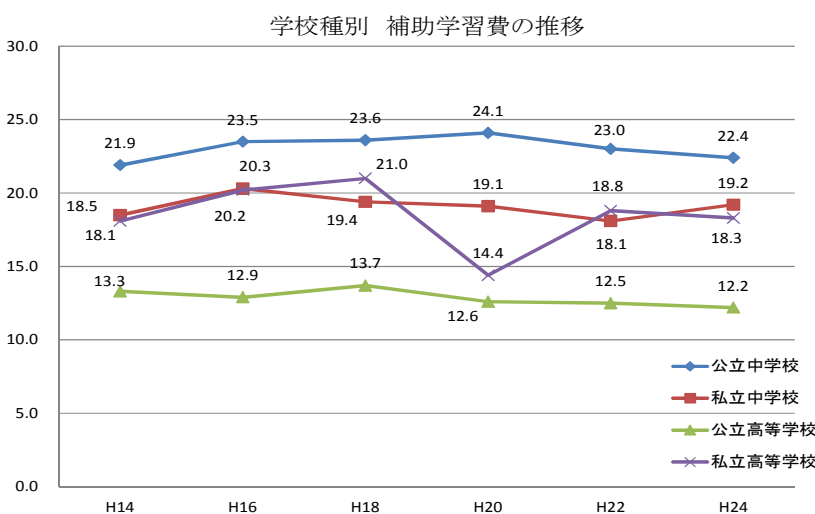
文部科学省の学習費調査をみると、平成24年度は、幼稚園から高等学校まですべて公立より私立学校のほうが上回っていることがわかります。

また、幼稚園3歳から、高等学校3年までの15年間について、学習費総額を単純合計すると、すべて公立の場合は、約500万円、すべて私立の場合は1,677万4千円となっています。この差は約3.36倍となっており、1,000万円以上の差となっていることがわかります。



学習費のうち学校外活動費の補助学習費はどうでしょうか。補助学習費とは、学習塾の経費、家庭教師への月謝、家庭内学習のための図書の購入費等です。

グラフを見ると、中学2・3年では、私立より公立のほうが多く支出していることがわかります。公立中学生を持つ家庭では、学習塾や家庭教師をつけ、希望の学校へ入学できるように、支出を増やしていると思われる。同じように、大学受験を控えた高等学校2・3年になると公立・私立ともに補助学習費が上昇する傾向が見られます。



さらに、学校種別の補助学習費の推移を見てみましょう。

中学校、高等学校ともに公立より私立のほうが補助学習費が高くなっています。補助学習費は平成14年からほぼ横ばいで推移していることがわかります。

今回とりあげた「こどもの学習費調査」については、みなさんもテレビや新聞でご覧になったことがあるかと思いますが、トピックスに掲載した以外にもさまざまな調査結果が掲載されていますので、みなさんもホームページをチェックしてみてもいいでしょうか。

※学習費とは学校教育費、学校給食費、学校外活動費をあわせた経費。

「学校教育費」は、授業料、入学金、学用品費、通学用品費など、こどもに学校教育を受けさせるための経費。

「学校外活動費」は、補助学習費とその他の学校外活動費をあわせた経費。